

JPN-4486	スキッパー：園田 至人／クルー：古谷 誠	
	スキッパー：井尻 直宏／クルー：石坂 昌太郎	20位 (119 point)
JPN-4413	スキッパー：小林 祐介／クルー：小川 美咲	
	スキッパー：青木 里衣／クルー：山本 大基	14位 (102 point)
JPN-4305	スキッパー：三井 健太郎／クルー：西織 浩信	2位 (21 6/4 point)

3日間を通して微風から強風まで風が上がってくる中、8レースを行いました。1日目は午前中から微風で、3レースの予定が2レースしか行えませんでした。風の振れも激しく、下りよりも上りで順位が大きく入れ替わる難しいコンディションでした。その中でも1位の筑波大学と4Pt差、2位からのスタートとなりました。2日目は1日目に1レース消化できなかったぶん3レースの予定が4レース行われました。千葉大学は、前日1位だった筑波大学をカバーしていましたが、他の大学の追い上げも激しく、4位となりました。しかし、2日目が終わった時点で筑波だけ頭一つ出て1位、その後ろに慶應、慈恵、東邦、千葉、東北が15Pt差の中でこの順に並び、メダル争いは熾烈なものとなりました。最終日は順風から強風の風が吹き、無事2レースを終えました。結果、千葉大学は2位と3Pt差、3位と同点となりましたが、規則(最終レースの成績が良かったチームが上の順位となるもの)により惜しくもメダルを逃して4位という成績となりました。

団体の結果は以下のようになりました。

優勝	筑波大学	189 point
準優勝	東北大学	247 1/4 point
第3位	東邦大学	250 6/4 point
第4位	千葉大学	250 6/4 point
第5位	東京慈恵会医科大学	255 6/4 point
第6位	慶應義塾大学	270 3/4 point

(以下14位まで省略)

近年部員が増え、レースメンバーを選抜するか否かという協議が何度も繰り返されながらも、今年はスキッパー5人、クルー5人で臨みました。レースメンバーの人数が多いことを生かして、毎日の練習後にはスキクル間だけでなく、レースメンバー全員での全体スキクルも行い、全員での情報共有を図ってきました。しかし今回は4位という結果でメダルを逃してしまい、大変悔しい思いでいっぱいです。合宿期間が多大に比べて短いことも考慮して、これからの練習方法など考えて改善していかなければいけない点が多くあると感じました。来年はメダルを獲得し、さらに優勝杯も狙うために皆で切磋琢磨しながらさらなる努力をしてまいりたいと思います。



海に出ること

千葉大医学部ヨット部 5年 園田至人

『ヨット部に入部します。』と入部宣言したときからヨット部での生活ははじまりました。僕はこの千葉大学医学部ヨット部に入ろうと思って大学に入った訳ではもちろんありません。この部活には勢いと魅力があります。きっとみんなそれぞれ感じていると思います。ある人は飲み会の雰囲気、ある人はこの部活が強いから、ある人は高校のときの先輩がいるから。しかしこれだけ大きな部活になったのはいままで先輩方が作り上げてきた部活の雰囲気なのだと思います。

今年の東医体の結果は4位でした。一日目を終えて2位、二日目はじめは微風でしたが、風があがり強風となり終了時5位という結果で部活の雰囲気は二日目には最悪なものでした。優勝を目指してここまでやってきたその思いが崩れた瞬間でした。しかし、残り2レース全力を尽くす、その意気込みで最終日に望み、最終レースを残して2、3位にいると集計されたものの最終レースではどの船もわずかなミスが響き4位になるという内容でした。

僕がキャプテンになって大事にしていたことが3つあります。

一つは雰囲気。とてもこの部活は雰囲気がよいです。他のどの部活にも負けないぐらいに。だけどそれは飲み会や新歓にとどまってははいけません。数が多い分、時間にはルーズになってきていたし、ダラダラしていることが多くなってきたことに関して以前にも増して厳しくすることも大切だと思っていました。一つは後輩。後輩はこの部活の宝です。これからこの部活を良くしていくのも、悪くしていくのも彼ら次第です。厳しく言うこともありましたが、とても大切な後輩たちです。よく仕事をしてくれ、自分たちの知る限りのことを教えればそれを何倍にも応用してヨットに乗り日々成長しています。今後の成長も大変楽しみであるとともに彼らの作る部活もまた楽しみです。

そして最後の一つは海に出ること。僕は一年生の頃から海に出れば全く同じ海面はなくそこには必ず得るべき何かがあると思ひ、それを得るためにできるだけ海に出ることに執着していました。レーメンになり、キャプテンになり、どんなコンディションでも出艇することで、そしてどこよりも長く海に出て練習していることで得るものがあると例年より練習時間も長くしました。これできっと勝てると思うてました。

春練でスキッパー5人クルー5人で東医体に出ると決めて、不安要素はもちろんありました。直前まで悩みましたが、しかし僕はこの十人ので出ることができてよかったとレース中に思うことができました。それぞれの海面を走り、風のシフト、潮、あらゆる情報交換をスタート直前までやることができました。レーメンの選び方に関しては賛否両論あると思います。この結果を見て、聞いて、否定しかないかもしれませんが、どちらにもメリット、デメリットはあります。そのどちらをこれからのレースメンバーが選ぶにしても後悔しないしてほしいと、これからは後輩たちの活躍を暖かく見守ってあげたいと思います。

素晴らしい部活でかけがえのない仲間と囲まれ、ともに東医体という舞台にあがりレースしたという素晴らしい経験は一生忘れられないものとなりました。

多くの支援をしていただいたOBの先生方に優勝トロフィーを再度持ち帰るという最高の形にできなかったことが唯一の悔みでしたが、現役共々これからこの部活がさらに強く、さらに勢いのある部活にしていきたいと思っています。

これからも千葉大学医学部ヨット部に支援、ご協力をよろしくお願いいたします。そしてハーバーには是非いらしてください、現役共々お待ちしております。

関東医科歯科学学生ヨットレース結果

東医体に引き続いて新人戦として毎年行われている関東医科歯科学学生ヨットレースが開催されました。今年は微風から順風のコンディションでレースが行われ、大きなトラブルもなく無事終了いたしました。今年のレースメンバーと個人成績は以下の通りです。

JPN-4486	スキッパー：涌井 凜子／クルー：島田 遼	9位 (38 point)	
JPN-4413	スキッパー：荒木 岳／クルー：石原 慶		
	スキッパー：古谷 慶太／クルー：長久保 源太	20位 (86 point)	
JPN-4305	スキッパー：栗原 滉平／クルー：大和田 彩夏／中島 理子		
	スキッパー：坂崎 仁美／クルー：駒井 佑哉	23位 (105 point)	
JPN-4224 (オープン艇)	4413 メンバー	JPN-4143 (オープン艇)	4305 メンバー
JPN-4035／JPN-3899 (オープン艇)	スキッパー／クルー：三年生		

団体の結果は以下のようになりました。

優勝	横浜市立大学	113 3/4 point
準優勝	東北大学	119 point
第3位	筑波大学	119 9/4 point
第4位	千葉大学	232point
第5位	慶應義塾大学	265 3/4 point

今年の関東医科歯科には、6月からスキクルを固定しこの大会に焦点を合わせて練習してきた2年生4年生で構成されたメンバーで臨みました。他大学のスキッパーの中には東医体出場者も多く、非常にレベルの高いレースとなり、5連覇を果たすことはできませんでした。来年はまた優勝杯を取り戻すべく新しくスキクルを組んだ1年生3年生は努力していきたいと思います。また、レースメンバーは一年間練習に励み、来年の東医体に向けて全力を尽くしていきたいと思います。

あとがき

今回が第24版の部報となりました。4年連続で6人、そして今年は2年連続7人もの部員が加わり、部の勢いは増してまいりました。今年の悔しい思いを忘れずに、来年夏の東医体、そして関東医科歯科戦で優勝できるよう、邁進してまいりたいと思っております。こうして活気を持ち活動できるのもOBの先生方のお力添えによるものと部員一同大変感謝しております。

末尾になりましたが、我々の活動状況・レース結果などをヨット部のホームページにも掲載しておりますので、お時間のある際には、是非ご覧になってください。

<http://chibamedyacht10.web.fc2.com/>

3年主務 小川美咲